

「幸せな日常」

田島小学校 四年三組

佐藤 巧人

僕には三歳年上の兄がいる。先日兄が突然野球の試合中に熱中症になり入院する事になった。僕は兄がとて大好きなので何をすることも兄と一緒にする事が多い。突然の兄の入院で一人になってしまった僕はとて寂しい思いをした。兄弟二人をすると何でも楽しい

のに一人になると会話の相手がないので寂しい気持ちになり何をしても楽しくなかった。兄が入院し、母が兄の付き添いで一緒に病院に泊まる事になり、僕は父と二人でしばらく生活することになった。お母さんが不在になることで困る事が増えた。いつもは食事も掃除も洗濯もお母さんがしてくれていたのので、何をするにもお母さんに電話をして聞いた。日頃からお手伝いを少ししていたけど、僕一人ではできない事が多かった。父は仕事

もありながらま、お家の事を頑張。てしてく
れたけれどお母さんがいる時のようには出来
なかった。おそうじや洗濯はできたが父はお
料理が苦手なので僕が好きな料理は出^せてこな
かった。がんばって作ってくれた目玉やきを
食べたけどお母さんが作ってくれるのはち
がった。

このことでぼくは、いつもの家族四人が健
康でいることの大切を改めて気づいた。だれ
か一人でもいなければ、さびしいし、困るし

不安な気持ちになっ。てしま。う。家族一人一人
が健康でいることで笑顔い。は。の。幸せな
日常「なんたと思。い。ました。と。んなに気をつ
けてい。ても病気にかがんだり、ケがをすること
にはあるけれどこれからは僕も「幸せな日
常」た。で。き。る。や。う。に。こ。で。き。る。事。を。た。っ。こ。い。き
たいと思う。日頃、あるそかにしてしま。う。手
洗い。う。が。い。を。し。か。か。り。す。る。事。ケ。が。を。し。な
い。よ。う。に。時。間。に。ゆ。と。り。を。も。っ。て。学。校。か。じ。り。く
に行きたい。また、おしおだれかが入院して

しまつた時のために日頃からお母さんのおま
伝いをして僕一人でできる事をふかしてい
きたいと思つた。そして、^乾当たり前の日常
それこそが「幸せな日常」であるといふこと
をおすれすに、日々を過こしていきたいと思
た。